

第6回 特定テーマワーキンググループ② 活動結果報告

● ワーキンググループの趣旨

まちづくり分野へPFSを導入するにあたってのポイントや成果となり得る指標について議論する。

● 開催概要

開催日時：2022年10月28日(金)13:30～15:00 開催手段：オンライン(ZOOM)

● 開催内容

講演① ヤマハ発動機 グリーンスローモビリティの活動概要ご紹介



ヤマハ発動機株式会社
主務
増井 惇也 氏

講演② まちづくりPFSの可能性と課題



千葉大学予防医学センター社会予防医学研究部門 教授
一般社団法人日本老年学的評価研究機構(JAGES) 代表理事
国立研究開発法人国立長寿医療研究センター老年学・社会科学センター
老年学評価研究部長(併任)
近藤 克則 氏

● 特定テーマワーキンググループ② 第1回～第6回まとめ

千葉大学 近藤 克則 教授 × 内閣府

【まちづくりPFSのポイント】

- 複数の企業を組み合わせることでよりダイナミックに事業が進む
- 比較対照群のデータを取る重要性・必要性を理解し、あらかじめ予算を確保する必要がある
- PFS/SIBによる効果は、政策のインパクト・効果を定量化し、従来数値では表せていなかったものを明確化することにある
- 事業初期では実務者の洞察、気づきが大切で、そういった人たちの感覚やセンスから出発していくと、より広がりが大きくなって色々な価値が生まれる可能性がある
- PFSは、取り組んでいる事業の意義を問い直すための有効なツール。測定方法は妥当か、科学的に見て効果があったと言えるのか、いくらくらいあったのか等、検証の一端を担っており、事業や成果指標を洗練させていくことが重要になっていく。
- 第三者評価の担い手を育てることを含め、産官学、官民学の対話が大事

【今後のまちづくりのPFSの展望・期待】

- まちづくりPFSは前例が少ない為、全てが研究開発的なフェーズと言える。ある程度研究開発的な試行錯誤が必要だということに関係者が共有することが重要
- PFSというのは10年単位の時間をかけながら、日本社会、世界中に広がっていく取り組み。新たな課題に対して新たなソリューションで挑む軸と、同規模の自治体の事例を横展開する軸の2つの軸で進めて行くべき
- PFSでデータを取って評価をし、それが全国に広がりデータが蓄積され、それを根拠に新たなPFSを組成して、という良い循環に入っていく、今はその入口に立っており、今後様々に展開できる可能性を秘めた段階にいる
- 目的感やゴール、解決すべき課題をクリアにして共有することが大切